

未就学児ヒアリングについて

1. 未就学児ヒアリングの事例

東京都中野区

- ・ 3 歳から 5 歳の異年齢グループ（こどもの人数：1 グループ 20 人前後）
- ・ 保育園の先生がファシリテーターとなり、以下の 2 つの質問で会話のキャッチボールをする
質問 1 「なにをしているときに いちばんたのしい？」
質問 2 「みんながすんでいるまちに どんなものがあったら うれしい？」
- ・ 時間は 30 分程度
- ・ 質問が書かれたイラストや意見を書き留めるホワイトボードを使用
- ・ 言いたいこどもは、手をあげる。先生が名前を呼んだこどもが話す。
その間は、ほかのこどもは手を下げて、話をきく。

2. 実施目的

こどもの権利条例の制定に向けて、アンケート調査の実施が難しい未就学児に、ヒアリングを通して、こどもの意見を聞きとり、条例に反映するため。

3. 対象者

未就学児（3 歳児～5 歳児）の本市の保育園・認定こども園・幼稚園に通園するこども

4. 実施方法

実施日程・場所：未定

※保育園・認定こども園・幼稚園に協力をお願いし、保育園・認定こども園・幼稚園（各 1 団体）にて、日時を調整のうえ実施する。

実施の流れ：（所要時間：45 分）

① ヒアリング目的の説明（5 分）

- ・ ヒアリングの目的を説明：
例：みんながすんでいるまちでは「こどものけんりじょうれい」というルールをつくろうと
しているの、きょうはみなさんのいけんをききにきました。」
- ・ 3 つの約束を説明：
☆だれが なにを はなしたかは だれにも わからないようにするよ
☆すべて たいせつな いけん だから、どんな ことを はなしてもいいよ
☆みんなのこえは、かならずとどけるよ

② こどもの権利を知る（10 分）



（例）こどもの権利の絵本を先生に読んでもらう

絵本名「ようこそ こどものけんりのほん」

■著者名：えがしらみちこ / こどもの権利・きもちプロジェクト

③ こどもへのヒアリングを行う（３０分）

先生がファシリテーターとなり、以下２つの質問をこどもに聞き、意見を引き出す。

質問１（案）：「何をしている時が 一番楽しい？」

→「なんでそう感じるの？」「どんなところが楽しい？」

⇒条例の前文、理念、権利などに反映

質問２（案）：「みんながすんでいるまちに どんなものがあったら うれしい？」

→「なんでうれしいの？」「どうして〇〇があるといいのかな？」

⇒居場所、仕組みなどに反映

・園児にわかりやすいように、質問のイラストを用意する。

・ホワイトボードを使用し、意見を書き出す。

※ヒアリング方法の詳細は、東京都中野区を参考に、各園と話し合い実施する。

④ こどもへのフィードバック（５分）

終わりに、みなさんの意見を「こどもの権利条例」に反映していくことを伝える。

条例ができた際に、概要版の報告書を協力いただいた園に配布する。